

大友館復元構想

～郷土に誇りの持てるテーマ・パークを～

私の住んでいる大分は、戦国時代、大友宗麟という大名によって治められていました。しかし、現在、この大分には大友氏について知ることのできる施設があまりありません。そこで、私は、大友氏や戦国時代の府内の様子について知ることのできる施設を造ることを提案します。

このところ、大友氏に関する話題が非常に多い。大友氏館跡の発掘では様々な遺構や遺物が出土し、県内数カ所でイベントも行われている。さらに、今年のNHK正月時代劇でも扱われ、県内はもちろん全国でも高視聴率を記録した。

大友氏、特に大友宗麟は、戦国時代「九州の雄」として君臨し、すすんで南蛮文化を取り入れたキリシタン大名として、偉大で実に特徴的な大分の誇れる先人の一人といえる。

しかし、残念なことに、この大友宗麟という人物を知ることのできる施設が大分にはあまりに少ないように感じる。先に述べたイベントなどは一時的なものであり、そんなに身近ではない。この非常に特異な人物も文化も歴史も、今を生きるひとに何も感じさせなければ台無しではないだろうか。

そこで、私は戦国時代の大友氏や府内の様子などを市民が身近に気軽に知ることのできる施設を大分市内につくることを提案する。

施設と言っても、従来の歴史資料館のように見て学ぶだけのものではない。それだと、歴史に興味のある、ごく限られた人のみが訪れる資料館になってしまうし、リピーターも少なくなるからだ。この施設は、今まで歴史に興味のなかった人さえ、郷土に誇りを持ち、また、何度でも訪れたいような、例えば、家族や友人、恋人とも楽しめるテーマ・パークのような施設にしたい。

まず、この施設の場所だが、今後、駅の高架化にともなうことができる大分駅南の文化施設予定地が最も適しているだろう。駅は老若男女を問わず市民が利用するからだ。しかも駅の近くなれば誰でも気軽に訪れることができ、市の中心なので大分の一時代を築いた人物に関する施設を設けるのにもふさわしい。

次に、施設の内容だ。施設は二階建てで、二階には戦国時代の文化を感じてもらうために、大友館の一部と庭園を復元する。大友館の庭園は京都風でとても美しく、普通の守護大名よりも大きく立派なものであったと言われている。この館や庭園を来場者が自由に過ごせる空間にする。日の暮れるまで、縁側で世間話をしたり、庭園を散策してみたり、館の一部屋を使用してカード・ゲームなどを楽しんだり。二階に設けるのは、庭園の塀の向こうに、現在の建物が見えないようにするためである。駅南は建物の高さを

制限しているので、塀の向こう（南側）には、戦国時代から変わらぬ緑の美しい上野の山のみが見えることになるだろう。

そして、一階の入口のすぐ前に、この二階へ上がるための緩やかなエスカレーターや階段を設ける。その脇には、大友氏館跡から発掘された、南蛮貿易を取り入れた土地・キリスト教の布教を認めた土地ならではの珍品(南蛮の陶磁器・メダイなど)を並べる。インテリアのような感覚で楽しめるようにするのだ。

さらに、一階には本格的に歴史を知りたいという人のために、大友氏や府内の文化などを学ぶことのできる資料や文献を公開する。

二階へ行くために必ず一階を見学しなければならないような造りにはしない。一階を見学せずに二階へ行けるようにすれば、気軽に遊ぼうと思って来た人も堅苦しい雰囲気気が滅入らずにすむからだ。しかも、二階で戦国時代を感じれば、きっと自ら興味を持ち、もっとこの時代のことを知りたいと一階の資料館を訪れる人も、自然に増えてくるだろう。

この他に、宗麟が建設しようとしたキリスト教の理想郷『むじかの里』や、この時代の食べ物を味わえる飲食店など、様々な、感じて楽しめる施設をつくるとおもしろいと思う。

この施設を訪れた市民一人ひとりが、自分の住んでいるこの土地の歴史を知れば、今よりも、もっとこの大分に誇りと愛着をもって暮らし、もっと素敵なまちになっていくでしょう。